

□■ 2012年 年頭のご挨拶 ■□

(社) 情報通信設備協会 東海地方本部
地方本部長 井上 新一

皆さん、明けましておめでとうございます。

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、当協会の事業運営にご理解とご協力を賜り有難う御座いました。

本年もどうぞ宜しく願い申し上げます。

昨年は、未曾有の『東日本大震災』が3月11日に発生しました。東日本大地震で被災された皆様には、心からお見舞い申し上げます。

また、情報通信インフラの復旧に向け、電気通信事業者等による懸命な復旧作業が行われ、当協会では会員と一丸となってお客様の情報通信端末設備の復旧・復興に取組み・支援しました。

政権交代後1年過ぎ、欧州では、ユーロ危機が取りざたされていますが、日本経済に関しては、横ばいか持ち直しの兆しが見え始めたところですが、円高などの情勢で先行き不安もあり、今年も非常に厳しい経済状況が予測されます。今年は、辰年で「辰巳天井」の言葉通り、「仕上げの年とありたい」と思っています。本来なら跳ねた卯(ウサギ)の仕上げとなるはずなのですが、去年ウサギが飛べなかった分、今年こそは、天に上る(昇竜)ような元気を取戻したいものです。

さて、私たちを取り巻く情報通信業界の動向では、去年の7月に地上放送のデジタル化完了、ICTの利活用等の一層の推進を図るなか、固定通信網ではNGN(次世代ネットワーク)、移動体通信網ではLTE(スーパー3G)、WiMAXなどの新しいインフラへ、既存サービスのインフラをより効率的に運用し利活用によるシフトが、各会員のお客様にどしどし提案され、顧客満足度の向上とお客様の信頼を形成されてゆくような年になることと思います。

ITを中心に「所有から利用へ」顧客のニーズはシフトしており、それに応えるべく通信事業者、ハードウェアベンダー、システムインテグレーター、ソフトウェアベンダー、海外情報系企業はこぞってSaaS(サーズ)、Cloud(クラウド)サービスへ急速に移行しつつあり、情報通信業界のパラダイムシフト元年ともいわれており、かなりの変化が予想されます。

益々激しい技術変化は当分の間続くことが予想され、「教育の充実」が今後も不可欠となってまいります。インフラを中心とした技術として、当協会の研修で実施している、L2、L3スイッチング設定を、実機を用いて行うコース「情報ネットワークプランナー(マスター)」で、インターネットまで範囲を広め、より充実した教育を一昨年より実施しております。

また、LAN認定制度が発足し3年目を迎え、より会員に活用されることを願っております。

そして、恒例となっております情報通信機材展が、総務省の情報通信月間行事として、今年5月に開催を予定しておりますので、是非、足を運んで頂きますようお願い申し上げます。

各会員企業が継続・発展し、従業員の皆さんが明るく元気になって、今後益々熾烈になる他業界との競争を乗り切っていくため、通信インフラで培ったノウハウを十二分に生かし、顧客へ固定通信網、移動通信網、PCの利活用提案を、「知恵の結集と連携」で行うことが重要かと思えます。

皆さんと手を取り合い協働し魅力ある協会にしてゆくため 皆さんのご協力と知恵をお貸しいただくことをお願いし、協会活動を通じて社会の貢献に寄与することを念願し、新年の挨拶とさせていただきます。

おわり